

里海について②

NPO 法人 里海づくり研究会議
理事 田中 丈裕

前号に引き続き、里海について NPO 法人 里海づくり研究会議の田中理事に教えていただきました。

よろしくおねがいします



里海を創るにはどうすればいいの？

里海を創るためには、沿岸海域で太く・長く・滑らかな物質循環を実現しなければなりません。物質循環とは、生物を構成する炭素、窒素等の循環であり、豊かで多様な生物相の回復があって初めて達成されます。

生物多様性は、多様な生息空間の確保と、生物相が極相^{*1}に達することを防ぐことで保障されます。それを達成するためには、適度な擾乱^{*2}を与え、適切な栄養状態を確保することが必要で、①物質循環を多様化する②生息場の多様性を増して生物多様性を大きくする③魚類再生産性を高くする等のために、干潟・藻場に代表される 20m 以浅の浅場整備を推進する必要があります。

※1：種の組成が単純化し多様性の低い状態

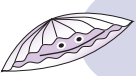
※2：かき乱すこと。読み；じょうらん



里海づくりは どうやって進めていけばいいの？

沿岸各地の実状は、漁業や海面利用の実態、海岸地形や周辺の土地利用形態、産業構造、文化や歴史的背景などによって様々で、目指すべき姿も異なるため、それを現実のものとして実体化していくことは簡単ではありません。

人間活動と沿岸環境の調和を実現するうえで、共通する最も重要な課題は、人にとって必要な食料である水産物を如何にして漁獲し続けることができるかにあります。それぞれの地域において、その海が本来有している特性や豊かさを再発掘し「里海」を実現するには、この課題を原点に置いて、地域の漁業者を中心とした地域住民、一般市民など「民」を主役に据え、地方自治体を始め、産・学・官の多様な分野の研究者・技術者等の叡智を結集することが不可欠です。



里海づくりを進めるうえで わたしたちはどうすればいいの？

沿岸海域では直接的な生産活動を行わない市民と海との関わりが、里海を支えるためには重要になります。具体的には、海に親しみ、海を保全することが、自己の生活・文化の中で重要な位置を占めることを市民が理解し、海に排水を流したり、ゴミを棄てたりするような行為をしないことです。

また、市民自らが沿岸の生態系バランスを維持するために具体的な行動をとるのは困難と思われがちですが、岡山県備前市日生では、2012年5月に、日生町漁協、岡山県、生活協同組合おかもやまコープ、NPO 法人里海づくり研究会議で、4者協定が締結されて流通消費部門や一般市民との連携が強化されました。地元の日生中学校でもアマモ場再生活動に取り組むなど、まさに漁民と市民協働による環境保全活動や環境教育活動、里海に関する広報活動が継続的に取り組まれています。

わかっていただけましたかな？

ありがとうございました！

